

あなたの住む町にあった映画館も？ 国立映画アーカイブ所蔵の映画館チラシ 873 点を公開



「映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—」更新のお知らせ

このたび国立映画アーカイブが国立アートリサーチセンターの協力のもと、国立情報学研究所と共同で開発したウェブサイト「映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—」に新たな資料が追加される運びとなりました。

本ウェブサイトのオープンに際して最初に公開した映画機材（撮影機・映写機）の画像・データ、第 2 弾として掲載した「映画館プログラム」につづき、第 3 弾として「映画館チラシ」を追加いたします。

★国内で初めて「映画館チラシ」のコレクションを大規模にオンライン公開

このたびは映画資料収集家の故・御園京平氏の旧蔵品《みそのコレクション》より、戦前期の「映画館チラシ」873 点を公開いたします。これらは現在のように配給・宣伝会社がつくる作品単位のチラシではなく、映画館が自ら上映作品を広報するためにつくるチラシです。公開資料の発行時期は 1905 年から 1936 年まで、劇場所在地は東北地方から九州地方までカバーしており、映画史だけではなく郷土史の研究にも役立つ資料です。また、映画以外の興行についての情報が書かれているチラシもあり、当時の人々が映画館でどのような体験をしていたのかを伺い知ることができます。「映画館チラシ」をこの規模でオンライン公開するのは、国内初の試みといえます。「映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—」では、今後もさらなる資料の公開を進めてゆく所存です。

本サイトで国立映画アーカイブが所蔵する資料をご覧になり、多くの方が映画の歴史を深く知ることができるよう、今後も改良を加えながらこのサイトを育ててゆきます。ぜひご紹介いただきますようお願い申し上げます。

サイト名	映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—
URL	https://nfajfilmheritage.jp/
新資料公開日	2025 年 2 月 26 日（水）16 時

新しい公開資料の一部



(第一福宝館 特集プログラム・チラシ) [1920 年]

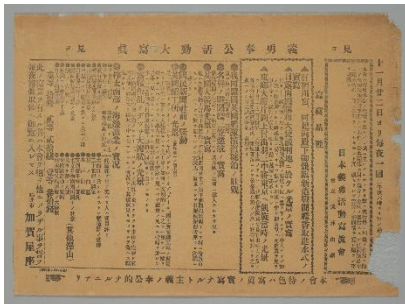
国立映画アーカイブが建つ土地がかつて営業していた第一福宝館のチラシ。牧野省三はミカド商会を立ち上げて『都に憶れて』を製作したが、日活に吸収されたため日活の作品と銘打たれている。



夏季特別大興行 日活代表二大名画併映

(京橋日活館 特集プログラム・チラシ) [1926 年]

第一福宝館は 1923 年の関東大震災後に京橋日活館と改称する。フィルムの現存が確認されていない溝口健二監督の『狂恋の女師匠』と尾上松之助が撮影途中に亡くなった『侠骨三日月前篇』(池田富保監督)が上映されている。



義勇奉公活動大写真

(加賀屋座 特集プログラム・チラシ) [1905 年]

全国を巡業した日本義勇活動写真會が 1905 年に福井県の加賀屋座で、日露戦争の講和会議や東郷平八郎の東京凱旋などの記録映画を上映した際のチラシ。興行収入の一部を義勇艦隊の建設費として、あるいはその他の公共団体に寄付すると書かれている。



市内撮影場ご案内

(桐座 特集プログラム・チラシ) [1922 年]

群馬県桐生市にあった桐座のチラシ。俳優として活躍していた衣笠貞之助が、映画と演劇を組み合わせた連鎖劇『悲しき結婚』(1922 年)の映像を桐生近郊で撮影することが記されている。



本邦最初の朝日座名物ニコニコ大會

(道頓堀朝日座 特集プログラム・チラシ) [1924 年]

江戸後期に焼失した演劇場の道頓堀朝日座は明治初期に再建され、やがて映画を上映するようになった。クロスワード・パズルの正解者 1000 名に一等席の招待券が当たる懸賞つきのチラシ。



(大阪松竹座 特集プログラム・チラシ) 1924 年

1923 年に映画館として開館し、現在は舞台芸術の劇場として営業する大阪松竹座のチラシ。メアリー・ピックフォード主演の『嵐の国のテスト』(1922 年、ジョン・S・ロバートソン監督)の日本公開にあたり、ピックフォードからの電信をそのままチラシに掲載している。

【本件に関するお問い合わせ】「映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—」広報担当

電話：03-3561-0823/FAX：03-3561-0830/E-mail：jfh@nfaj.go.jp